

労働図書館新着情報

今月の図書紹介

<p>①吉川洋著『人口と日本経済』中央公論新社 (iii+198頁, 新書判)</p> <p>本書は、21世紀の日本を考える際のキーワードとも言える「人口」について、経済との関係をヒモ解くことを目的としている。四半世紀に及ぶ経済衰退の原因の一つではないとしつつも、現段階で負の要因として挙げられるのは人口減少だと指摘。しかし、過去を振り返ると、先進国の経済成長は人口ではなく、「一人当たり」GDPの成長によってもたらされてきたと強調する。そのうえで、人口減による需要不足からゼロ成長論を唱える主張に反論。経済成長は経済学者シュンペーターが見抜いたように「イノベーション」によってもたらされ、日本が世界有数の長寿国であることこそチャンスであるという。日本にまん延している「人口減少悲観論」に一石を投じる書だ。</p>	<p>③谷内篤博著『個性を活かす人材マネジメント』勁草書房 (ix+254+xiv頁, 四六判)</p> <p>副題が「近未来型人事革新のシナリオ」。し烈な企業間競争など激変する環境の下、企業の成長を支える人事システムも変革を迫られているとの考えに基づく。本書は、今後10年に企業に求められる人事革新の構成を、①人事パラダイムの集団主義から個性尊重主義への移行②コンピテンシーモデルの人事制度としての妥当性の分析③組織イノベーションの創出に向けた個性尊重主義人事の展開に求められる組織マネジメントとリーダーシップに関する解説——などを軸に展開。とくに③について、組織イノベーションを生み出すためにはミドル層が戦略ミドルに脱皮し、機能別組織からチーム型、さらにはネットワーク型オーケストラ組織に転換することが望ましいとしている。</p>
<p>②前川孝雄著『社員が辞めない、ワクワクする職場「働きがいあふれる」チームのつくり方』KKベストセラーズ(238頁, 新書判)</p> <p>働く人たちにとって、ワークライフバランスに配慮する人事施策などの動きは歓迎すべきことだが、著者はときとして向上心をもって働きたい人に見当違いの施策になると警告。経験上、働きやすさだけを追求しても、仕事の満足度は高まらないとの見方を示す。問題となるのは「働きがい」が得られているかどうか。働く個人が元気になり、閉塞感を打破するために「働きがいあふれる」チームを構築する必要があると主張する。このチームに共通するのは、①立場に関係なく「信頼関係」が築かれている②「コミュニケーション」を大事にしている③従業員が「自律」をはかり、自社に「誇り」を持っている——など。社員が自発的に仕事を楽しんでいる職場が理想だとする。</p>	<p>④野崎大輔著『「ハラ・ハラ社員」が会社を潰す』講談社 (189頁, 新書判)</p> <p>「何でもかんでも『ハラスメント』と騒ぐ、あなたの発言こそハラスメントです！」——この問題を題材にした場合、予防策や対処法をテーマにすることが多いが、本書では現在発生しているハラスメントの「新しい問題」を考える。これまでの代表格はセクハラとパワハラ。それがいまでは意味不明なハラスメントが急増、細分化されたことで何かをしたらすぐに訴えられる状況になっているという。本書は、ハラスメントという大義名分を武器に、言いがかりをつける行為を「ハラ・ハラ」と称し、そういうことばかりする社員を「ハラ・ハラ社員」と命名した。ハラ・ハラ社員を注意できない管理職の増加などによって、会社が機能不全になりかねないケースを多数紹介する。</p>

(日本十進分類[NDC]順に掲載)

主な受け入れ図書

(2016年10—11月労働図書館受け入れ)

- ⑤ジェリー・カプラン著『人間さまお断り』三省堂(268頁, A5判)
- ⑥リチャード・セイラー著『行動経済学の逆襲』早川書房(527頁, A5判)
- ⑦佐藤龍三郎他編著『ポスト人口転換期の日本』原書房(ix+230頁, A5判)
- ⑧安齋徹著『企業人の社会貢献意識はどう変わったのか』ミネルヴァ書房(xi+278頁, A5判)
- ⑨渡辺峻他編著『活躍する女性会社員の国際比較』ミネルヴァ書房(ix+249頁, A5判)
- ⑩田北百樹子著『ベビー社員』PHP研究所(221頁, 新書判)
- ⑪ジョナサン・H. ターナー著『中間階級の蜂起』学文社(222頁, A5判)
- ⑫セリーナ・ドット著『ザ・ピープル』みすず書房(492+iv頁, A5判)
- ⑬渡辺三枝子編著『キャリアカウンセリング実践』ナカニシヤ出版(180頁, B5判)
- ⑭福山和女他責任編集『介護・福祉の支援人材養成開発論』勁草書房(211頁, B5判)

労働図書館 <http://www.jil.go.jp/lib/index.html>

当図書館は、社会科学関係書を中心に和書118,275冊、洋書30,519冊、和洋の製本雑誌25,332冊を所蔵している日本有数の労働関係の専門図書館です。

労働関係の分野には、労働法、労働経済、労働運動、雇用職業、女性労働、パート派遣、高齢者労働、障害者労働、外国人労働、社会福祉などがあり、これらで、蔵書の半数以上を占めています。このほかにも、経済書をはじめ経営学、心理学、教育学、社会学など関係分野に及んでいます。また、和雑誌(285種)、洋雑誌(120種)、紀要(510種)、組合機関誌・紙を受け入れています。

特色としては、厚生労働省をはじめとする官公庁発行の統計類などの逐次刊行物、経団連など経営者団体の刊行物や民間研究機関刊行物、社史があり、労働組合に関しては、労働運動史、ナショナルセンターや産業別組合の大会資料などを継続的に収集しています。洋書については、特に国際労働機関(ILO)総会の議事録や経済協力開発機構(OECD)の刊行物、各国政府の労働統計書などを収集して閲覧に供しています。特殊コレクションとしては、戦前・戦後を通して歴史的に貴重な労働組合の原資料を収集、提供しています。

所在地: 〒177-8502 東京都練馬区上石神井 4-8-23
 開館時間: 9:30 ~ 17:00
 休館日: 土曜日・日曜日・国民の祝日・年末年始(12月28日~1月4日)、その他
 電話番号: 03(5991)5032 / FAX: 03(5991)5659
 利用資格: どなたでもご自由にご利用できます

貸出: 和書・洋書とも2週間、5冊までです
 ※身分証明書(運転免許証、健康保険証など)をお持ちください
 レファレンス・サービス: 図書資料の所在調査などのサービスを行っています

